

6月報(2020年) 萌 カトリック福山教会

～～ みこころの月 ～～

〒720-0808 福山市昭和町 7-26
☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615
e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp



イエスのみ心は、全人類に対する神の愛の象徴として、イエスの心臓を表し、その信心は、イエスのみ心に表される神の愛を思い起こし、その無限の愛のしるしであるみ心をたたえるものとして中世に始まりました。特に、聖マルガリタ・マリア・アラコック（1647-90）がみ心の信心についての啓示を受けて、17世紀にフランスで広まりました。1675年6月16日、この聖女はご聖体を前にして、イエスの愛にこたえたいという思いに駆られました。そのときイエスは、愛情に燃えているみ心を示して、人々の間に存在する冷淡な心を嘆かれ、イエス自身の愛に倣ってその心を尊ぶことを勧められました。

緊急事態宣言」の解除を受けて：新型コロナウイルス感染症の防止対策の方針（その6）



+ 主の平和

5月31日まで延長されることになっていた新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が、昨日、14日に、39県で解除されました。広島教区が管轄している中国5県もその中に含まれています。これまで集団感染（クラスター）の発生を回避するために、公開ミサをはじめ、その他の教会活動を休止してきましたが、とくに緊急事態宣言が発令されていた期間、皆様のご協力に対して、心より感謝申し上げます。

今回の通達（その6）では、前回の通達（その5）で暫定的にお伝えしたことを再確認して、今後の教区の方針を、以下のように確定します。気を緩めず、感染拡大の第二波の防止を心がけ、とくに集団感染（クラスター）の発生の機会とならないように十分配慮しつつ、公開ミサをはじめ、その他の教会活動の再開に向けて、各小教区・巡回教会における段階的な移行の対応を、よろしく願います。

今回の通達（その6）では、前回の通達（その5）で暫定的にお伝えしたことを再確認して、今後の教区の方針を、以下のように確定します。気を緩めず、感染拡大の第二波の防止を心がけ、とくに集団感染（クラスター）の発生の機会とならないように十分配慮しつつ、公開ミサをはじめ、その他の教会活動の再開に向けて、各小教区・巡回教会における段階的な移行の対応を、よろしく願います。

1：教区内での公開ミサの休止（5月17日まで）

前回の通達（その5）では、5月14日の専門家会議の判断に基づく政府の見解を待って、教区の対応を検討するため、5月17日（復活節第6主日）まで、公開ミサを休止することを確認していました。この公開ミサの休止期間の方針に、変更はありません。

2：教区内での主日・週日の公開ミサの段階的な再開

①週日のミサ

段階的な移行のために、今後の各小教区・巡回教会での比較的少人数の週日の公開ミサは、各小教区・巡回教会の判断によって、5月18日（月）から開催していただいで結構です。

②主日のミサ

原則的には5月31日（聖霊降臨の主日）から公開ミサを再開することにします。事情によって、まだ5月31日（聖霊降臨の主日）からも、主日の公開ミサを再開できそうにない状況の小教区・巡回教会につきましては、教区本部への連絡をお願いします。なお、主日の公開ミサの早期再開を希望する教会も複数ありますので、段階的な措置として各小教区・巡回教会の判断によって、5月24日（主の昇天）から、主日の公開ミサを再開することに同意します。

3：公開ミサの参加者への協力依頼について

中国5県では、感染状況が改善されてきているとはいえ、ウイルスが完全に終息していない中で、集団感染（クラスター）の発生の危険を回避するため、地方自治体から出されている予防対策を参考にして、公開されていくミサの参加者へ、例えば、以下のような協力依頼を検討してください。

- ・ミサに来る前に体温を測るように勧める。発熱や咳などの症状がある方々については、自宅待機をお願いします。
- ・発熱や咳などの症状がある司祭は、他の司祭にミサの司式をお願いしますか、場合によっては、早めにミサの臨時休止の判断をおこなって、通知する。
- ・高齢者や障がい者の方々に、無理をしないよう声をかける。（自宅へ聖体を運ぶようにする。）
- ・ミサの前後の（とくに飲食を伴う）親睦の集まりを、当面は控える。
- ・ミサ前の手洗いや手の消毒をお願いします。（とくに司祭、聖体授与の奉仕者、侍者）
- ・ミサ中には当面、マスクの使用をお願いします、可能な範囲で間隔をおいて座る。
- ・ミサの前後はもちろん、ミサ中の換気にも気をつける。

4：大きな困難の中にある人々、とくに在日外国籍の方々への支援について

教区内で、大きな困難の中にある信徒、とくに在日外国籍の信徒への支援をすでに開始してくださっている種々のボランティアの方々に心から感謝申し上げます。生活に困窮している人々のために、金銭的な援助や必要な食料・物資などの提供のお願いなど、情報を共有しながら、力を合わせて、可能な範囲での支援を推進していければ幸いです。

教区本部からの情報の発信やお願いなどの必要がありましたら、遠慮なくお知らせください。

5：長期的視野に基づく新しい対応様式の検討について

各小教区・巡回教会（少なくとも司祭と教会役員）では、公開ミサの再開時期だけではなく、向こう半年～1年の長期的視野に立って、①衛生的観点（政府・地方自治体から出されている感染防止の具体例を参考に）、②霊的観点（秘跡授与の機会の提供、移動が困難な高齢者・障がい者への配慮など）、③組織的観点（年中行事や会議の開催の見直し、情報伝達や連絡網など）、④宣教的観点（社会への奉仕、ボランティアなど）、⑤経済的観点（予算の縮小・再編成）などの総合的角度から、各小教区・巡回教会単位での新しい対応様式を具体的に検討して下さるよう重ねてお願いします。

昨日の緊急事態宣言の解除によって気を緩めず、感染防止の対策を継続しつつ、公開ミサやその他の教会活動を段階的に再開して下さるようお願いいたします



【福山教会の対応】★ミサ時間について★

月曜日	6:30
火曜日	6:30
水曜日	6:30
木曜日	18:00のみ
金曜日	10:00のみ
土曜日	6:30
	18:00 主日ミサ前晩
日曜日	9:00 11:00 15:00 18:00

★お願い

※9:00のミサに集中しないように出来るだけ分散してください。

（一度のミサに70人までとします）

※席は隣と距離を取って座ってください。

（同居家族は一緒に座ってください）

※聖体拝領時、密にならぬよう間隔を空ける必要があります。

（普段とは違うので指示に従ってください）

※当分(6月末まで)この時間帯になります。

動画によるミサにあずかって

マリア 大内 暢子

主人とともに、自宅でミサにあずかることが出来て、心も体も幸せになりました。ありがとうございます神父さまも朗読者も、ゆっくり、はっきりと話してくださっていたので聞き取りやすく、聖書の言葉がよく届きました。答唱詩編のとき、祭壇で歌ってくださったのは、よく伝わって良かったです。ご聖体に与ることは出来なかったけれど、イエスキリストのご臨在を深く味わうことができました。

お世話になります、よろしく申し上げます。

福山教会萌担当様

お元気でお過ごしでしょうか？コロナ感染症のため教会活動もままならない状況でしょう。主任司祭の交代があってもまだ顔見せもできないではないでしょうか？

こんなときに便りを送っても??と思いましたが、こんな時だから違う風を入れてリラックス気分転換も良いのではと思い直して送ります。写真はカリタスのベースから5分くらいの山に水芭蕉のの群生地があります。それと私の元気な姿(修道院の裏の小高川の堤に咲く桜並木を見せたくて。ちょっと遅いですが)です。皆様どうぞお大事にお過ごしください。北村令子

南相馬便り ⑭ 2020年5月

援助マリア修道会南相馬修道院 北村令子

新緑が美しい頃となりましたが、相変わらず新型コロナウイルス感染拡大のため、日本中、世界中混乱が続いています。これは神様からの私たちへの警告ではないでしょうか？世界の今の在り方への警鐘を鳴らしておられると感じます。人と人との、また国と国のかかわり方、自然や地球に対する利用の仕方、個人主義、自国優先、自然の乱開発など。きっと何か新しい在り方を見つけなさいとのサインでしょう。私たち一人ひとり、そして国を動かす人々に光が示されますように。



聖木曜日、聖金曜日は辛うじて非公開のミサと儀式に参加できましたが、復活徹夜祭の洗礼式も10人以下の参加者に限定され(密集・密接を避けるため)、参加できませんでした。ご復活のお祝いも、皆で集まってできないなんて！緊急事態宣言が全国に拡張され、私たちも本来の活動が制限され、被災地の復興はまた振出しに戻った感じがします。一人暮らしの高齢者が心配です。4月

11日、東日本大震災の10年1ヶ月目の月命日に、近くの村上霊園にお祈りしに行きました。以前に全村が津波に流された事を紹介しました。そこで命日にお参りに来ておられた一人のご婦人とお話しできました。15歳年下の妹さんが村上地区にお嫁に来られて流された。その妹さんは51歳で亡くなられたので、今存命なら60歳、お会いした方は75歳ということになりますが、ずいぶんお年を召されたように見えました。それもそのはず原発にずっと近い浪江のかたで、取るものも取りあえず避難して、避難先でスーパーに買出しに行った時、原発の爆発音を聞き何の音かわからないまま、パトカーがすぐ退去せよと叫んで、追い立てられるように長野の娘の嫁ぎ先へ避難した

11日、東日本大震災の10年1ヶ月目の月命日に、近くの村上霊園にお祈りしに行きました。以前に全村が津波に流された事を紹介しました。そこで命日にお参りに来ておられた一人のご婦人とお話しできました。15歳年下の妹さんが村上地区にお嫁に来られて流された。その妹さんは51歳で亡くなられたので、今存命なら60歳、お会いした方は75歳ということになりますが、ずいぶんお年を召されたように見えました。それもそのはず原発にずっと近い浪江のかたで、取るものも取りあえず避難して、避難先でスーパーに買出しに行った時、原発の爆発音を聞き何の音かわからないまま、パトカーがすぐ退去せよと叫んで、追い立てられるように長野の娘の嫁ぎ先へ避難した



とのこと。6ヶ月ほどそこに居て、あまり長い間迷惑をかけるのも悪いと思い、自宅に帰ろうにも放射線汚染地域で帰られず、仮設で避難生活。苦勞された跡が見えました。今日はお天気がいいので、主人（車椅子）と浪江に行つて来ようと思います。自分のうちが判るかしら？ どんどん家を取り壊されているようだし、帰還した住民は千人くらいで、まだ帰還困難区域のバリケードもあるのに、新しい大型施設（道の駅やスーパーなど）が建てられて、本当にみんな戻つて来られるのかしら？ と不安げに首をかしげながら話してくださいました。それでも、「日本はいい国ですねえ、皆さんにどんなに助けられたか、今も助けられているか」と感謝の言葉をいただきました。この日、ここはまだ桜が満開の美しい日でした。でも、その周辺一帯はどんどん真っ黒の太陽光パネルで埋め尽くされようとしています。それは、もうこの土地には人が住めない地、畑も田んぼもできない地と宣言されていて、大地の呻き声が聞こえてくるようです。ここだけに限りません南相馬の太平洋に面した土地のほとんどがソーラーパネルで埋め尽くされ黒い海に見えるので、津波にあった方々はあの日（3. 11のあの日）の黒い海を思い出させられるのです。

「おだかぶらっとほ一む」は、一旦解散となりました。小高の復興に一番乗りで開かれた、集まって気軽におしゃべりできるスペースでした。復興のための補助金と寄付金で運営されていたので、いろんなイベントを計画し、報告が義務付けられているため、自由にやりたい事ができないことと、所期の目的を一応果たせたことから、今後もっと良い場所に作り上げて行きたい思いで一旦解散となりました。私達はその後も、かかわりを続けて行きたいので、火曜日と金曜日には出向いています。ただ新型コロナのために外出の自粛が要請されているので、少人数での関わりしか許されませ



ん。常連さんや飛び入りさんがやって来て、「おだかぶらっとほ一む」と言う名前はなくなっても、まだまだこの場所は必要なんだと実感する日々です。補助金を返上したので光熱水費、お茶などの経費がどこから出せるか課題です。コロナ感染症が早く終息する事を祈るばかりです。

ももっともお伝えしたい事はありますが、今回はここまでとします。

南相馬便り⑮ 2020年5月 第2弾 援助マリア修道会南相馬修道院 北村令子

皆様、お元気にお過ごしでしょうか？

学校現場は大変な時を過ごされていることでしょう。学校に限らず、すべての職業で、しかも世界的に差別なく、すべての人がこの非常事態を体験しているのです。ある人が言いました。第三次世界大戦は、今まさにこのコロナ戦争がそれなんです。と

新型コロナウイルス感染拡大のため、外出する時は、帰つて来られるかどうか分からないと覚悟して出かけなければなりません。私たちも、すべての活動が制限され、外出自粛でカリタスのベースに通うこともなく（S吉岡はお勤めなのでほぼ毎日出勤です）、修道院にすることが多く、週に何度かまごころサロンの作業・マスク作りのお手伝いを内職のように修道院でしたり、週に2度のぶらっとほ一むへ出合いを求めて行くことと、家の中の片づけやおさんどん、買い出しに外出するくらいです。おかげで毎日昼食後、小高川の堤を散歩し、きれいな景色と空気を吸って、出会う人と友達になれるチャンスもあります。

先月ちょっとした地震があつて、福山から同級生がお見舞いの電話をくださいました。ありがたかったです。でも、幸いにここは大したことはなく、よく地震はありますがまだそれほど

大きなのは経験していません。それより今年の夏くらいから毎日、震度3くらいの揺れがあります。斜向かいの4階建の小高病院が取り壊され、すごい騒音と重機の唸り声、ガタガタと恐竜が暴れている足音、地鳴りのような音が聞こえて、思わず立ち上がって逃げようかとおもうくらいです。でも毎日のことでそのうち慣れてきましたが、慣れない一人のシスターはその度に悲鳴を上げています。私は「遊園地でジェットコースターかコーヒーカップに乗っていると思えば楽しいじゃない？」となだめますが、「！そんなもん乗ったことがない！ちっとも楽しくない！！」と怒るのです。でも2回のバルコニーから作業を眺めていると、重機の何と精巧に出来ていることでしょう！人間の手や腕と同じ動きをします。大きな瓦礫と土とを篩い分けるのに、人間が手の平に土を握って指の間から小さい粒を振り落とすと同じことをシャベルカーがやっているのです。こんな機械を作った人は本当に偉いですね！何を今頃感心しているのかと呆れられそうですが、こんな近くであの大きな建物解体を見たのは初めてです。

いつまでこのような状態が続くのでしょうか？神様のお心は？と自問します。先日のごミサのお説教で、幸田司教様は「イエスは『神の国は近づいた、回心して福音を信じなさい。』』と言われます。福音とは何でしょうか？それは、どんな時にも、どんな人にも、弱く貧しくされた人にも、病気や罪に苦しむ人にも、神はそばに共にいてくださる。誰一人見捨てられる者はないのです。このコロナ感染症で苦しむ一人一人のそばに神はいてくださるのです。一人ぼっちの人は一人もないのです。死によって見捨てられたと感じることがあっても、父なる神は決して見捨てられず新しい復活の命へ導いてくださるのです。決して希望を失うことなく、信頼をもって神のみ心に委ねていきましょう。」こんな意味のことを話してくださいました。イエス様の言葉は単なる慰めごとではありません。イエス様はご自分の言葉に命を懸けてくださった方です。福音の言葉にはイエス様の十字架の上での命がかけられて、復活の喜びが込められているのです。

信頼と希望をもって、コロナ感染症の終息を祈りましょう。

もっともっとお伝えしたい事はありますが、今回はここまでとします。

※6月・7月の行事予定は随時報告させていただきます。

【投稿依頼】

皆さま、ご承知の通り福山教会に昨年からは月報が出されるようになりました。これは、従来の週報では伝えきれない教会のその月の祝日や、重要な事などをお知らせしようとするものです。併せて、これは、私たち信者の交流を図るものですから、広く皆さまの信仰体験、行事の感想、思い等を募集しています。投稿は、受付にご連絡ください。お待ちしております。

月報作成委員会